

第42回 **BACH** スクリーンコンサート

2025. 3月

今月のテーマ **情景が浮んでくるメロディー**

作曲家が様々な風景を曲の中にイメージした世界を見ることができます。音楽を聴きながら情景がまるで目に浮かんでくるようです。なかにはユーモラスな曲もあり、自分なりにイメージしながら聴いてみてください。



1、ベートーヴェン 交響曲第6番 田園 17:00

ベートーヴェン自身がタイトルを付けたのはこの交響曲だけです。そして各楽章にもそれぞれ標題が付けられています。第1楽章「田舎に到着した時の愉快的気分」。

第2楽章「小川のほとりの情景」。第3楽章「田舎の人々の楽しい集い」。

第4楽章：雷雨と嵐

楽しい村民の集いを突然襲う、屋下がりの激しいにわか雨の様子が、非常に描写的に描かれています。楽章の最後では雷の音も遠ざかり、晴れ間から麗らかな田舎の情景が奏でられ、次の楽章に入ります。

第5楽章：牧歌。嵐の後の喜びと感謝の気持ち

雨が上がり、日が差し、自然への畏敬と感謝の牧歌が歌い上げられます。まずクラリネットがドルチェで奏で、それがこだましてからホルンに移ります。これに導かれて、感動的な牧人の歌がヴァイオリンからヴィオラ、チェロ、ホルンに受け継がれ喜びを奏でます。

2、Jヨナソン：「かっこうワルツ」 2:30

カッコウは何回鳴いたでしょうか。

「ミド」のカッコウ→49回、「ソミ」のカッコウ→11回

3、ヴィバルディ：フルート協奏曲「ごしきひわ」 9:00

これはヴィヴァルディがごしきひわという鳥の鳴き声を模倣したものだ。

4、サンサーンス：「動物の謝肉祭」から「白鳥」 3:18

全部で14曲からなる13曲目白鳥。チェロの豊かな響きが優雅に泳いでいる白鳥を想像させます。

5、リムスキー・コルサコフ：「熊ん蜂の飛行」 1:40

リムスキー＝コルサコフのオペラ「サルタン皇帝の物語」中の曲。曲名の所以は、実際に聴いてみるとすぐにわかります。

6、ショパン：「子犬のワルツ」 2:00

ショパンの計 19 曲のワルツの中に、様々な舞曲を入れましたが、その中でも子犬のワルツはテンポが速く、まさに子犬が円を書いてチョコチョコ走り回るような情景がぴったりの曲です。

7、ヨハンシュトラウス二世：「雷鳴と電光」 3:30

にぎやかなポルカです。大太鼓とシンバルの大活躍が雷鳴と稲妻を表現している、小品ながら大変印象深い曲なので、一度聴いたら忘れません。

8、ゲルビー：「ペルシャの市場」 7:00

イラン・イスラム共和国です。まだペルシャと呼ばれていたこの国の首都テヘランの市場の賑わいと喧騒が、東洋風のリズムと親しみやすいメロディによって描かれます。

9、「結婚行進曲」

結婚式における定番曲として使用される曲です。

(1)メンデルゾーン：夏の夜の夢 作品 61 結婚式の場面に登場します。 6:15

(2)ワーグナー：「結婚行進曲」合唱曲としてオペラ『ローエングリン』第3幕第1場において歌われます。 2:07

12、ヴェバルディ：ヴァイオリン協奏曲四季

ヴィヴァルディの最も有名な作品である《四季》は、1723年に作曲された4つのヴァイオリン協奏曲のセットで、バロック音楽の中で世界的に最も人気があり季節の移り変わり（春夏秋冬）を標題的に表現し、技術的にも革新的であり、新境地を開拓した曲です。

(1)解説 30:00

(2)全楽章 40:00

次ページへ

ヴェバルディ：ヴァイオリン協奏曲四季

協奏曲第1番「春」

- 第1楽章：春がやってきた、小鳥は喜びさえすりながら祝っている。小川のせせらぎ、風が優しく撫でる。春を告げる雷が轟音を立て黒い雲が空を覆う、そして嵐は去り小鳥は素晴らしい声で歌う。
- 第2楽章：牧草地に花は咲き乱れ、空に伸びた枝の茂った葉はガサガサ音を立てる。羊飼は眠り、忠実な猟犬はそばにいる。
- 第3楽章：陽気なバグパイプにニンフと羊飼いが明るい春の空の下で踊る。

協奏曲第2番「夏」

- 第1楽章：かんかんと照りつける太陽の絶え間ない暑さで人と羊の群れはぐったりしている。松の木も燃えそうに熱い。カッコウの声が聞こえる。そしてキジバトのさえすりが聞こえる。北風がそよ風を突然脇へ追い払う。やって来る嵐が怖くておののく。
- 第2楽章：稲妻と雷鳴の轟きで眠るところではない、ブヨやハエが周りにすさまじくブンブン音を立てる。
- 第3楽章：「夏の嵐」嗚呼、彼の心配は現実となってしまった。上空の雷鳴と雹（ひょう）が誇らしげに伸びている穀物を打ち倒した。

協奏曲第3番「秋」

- 第1楽章：「小作農のダンスと歌」小作農たちが収穫が無事に終わり大騒ぎ。ブドウ酒が惜しげなく注がれる。彼らは、ほっとして眠りに落ちる。
- 第2楽章：「よっぱらいの居眠り」大騒ぎは次第に弱まり、酒はすべての者を無意識のうちに眠りに誘う。
- 第3楽章：「狩り」夜明けに、狩猟者が狩猟の準備の為にホルンを携え、犬を従える。獲物は彼らが追跡している間逃げる。やがて傷つき獲物は犬と奮闘して息絶える。

協奏曲第4番「冬」

- 第1楽章：寒さの中で身震いしている。足の冷たさを振り解くために歩き回る。辛さから歯が鳴る。
- 第2楽章：外は大雨が降っている、中の暖炉で満足そうに休息。ゆっくりしたテンポで平和な時間が流れる。
- 第3楽章：私たちはゆっくりと用心深く、つまづいて倒れないようにして氷の上を歩く。しかし突然、滑って氷に叩きつけられた。氷が裂けて割れ、頑丈なドアから出ると外は南風と北風がビュービューと吹いていく。そんな冬であるが、もうすぐ楽しい春がやってくる。